中通小学校　学校だより　令和2年度　8月号

# たくましい子

令和2年8月7日発行
中通小学校長　川尻　優

## 来年の今頃は・・・

ようやく、明日から夏休みを迎えます。この日を心待ちにしていた子どもたちも多かったことと思います。

今年度は、七月二十七日から本日までの十日間、夏休みを短縮して授業を行ってまいりました。この間、すべての学年で、体育の時間に「ボッチャ」を実践しました。

「ボッチャ」は、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。

ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ六球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

ボッチャ」を取り上げることにしたねらいは次の四点です。

○ **パラリンピックに関する指導の一環として。**
○ **一年生から六年生まで楽しむことができる。かつ、運動技能差が少ないため、誰でも平等に楽しむことができる。**
○ **水泳が中止になったので代替種目として採用する。**
○ **七月下旬～八月上旬の体育は熱中症が心配であるが、ボッチャ」ならエアコンが効いた教室でも実践可能である。**

子どもたちは、初めて手にする「ボッチャ」のボールを、どこに投げたらチームに有利になるか思案しながら、楽しく勝敗を競い合うことができました。

残念ながら、今年のパラリンピックは延期となりました。来年無事開催できた暁には、今回の体験を思い出して、「ボッチャ」日本代表に声援を送ってほしいと願っています。

四月より、毎日制約の多い生活を余儀なくされています。これまでの、子どもたちの頑張り、保護者の皆様や地域の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。そして、今年は短い夏休みではありますが、皆様にとって有意義な夏休みとなりますことを、お祈り申し上げます。

1・2年生の体育授業より

## 児童会行事「若葉夏祭り」

8月5日(水)に児童会行事「若葉夏祭り」を行いました。1～6年生が縦割り班に分かれて、「おもてなし」と「楽しいお店」をめあてに手作りのお店を出店しました。

例年12月に「若葉祭」として行っていましたが、コロナ禍で様々な行事が中止・延期になっています。そのため、「若葉祭」を前倒しして「若葉夏祭り」として、実施しました。

どの班も、協力し合って準備や運営に取り組み、笑顔あふれる1日となりました。

ペットボトルボーリング
「出るか？ストライク！」

閉会式でみんなの頑張りを振り返りました。

くじ引きコーナー
「出るか豪華景品！
それとも
罰ゲームか？」

魚釣り
「釣れそうで釣れないので夢中になります！」

輪ゴム鉄砲
「よーくねらって！」

みんなの仲が深まりました！

## ９月の予定

| | |
|---|---|
| 2日（水） | 委員会<br>避難訓練 |
| 3日（木） | 全校朝会 |
| 7日（月） | 相馬ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ来校<br>みずほ家庭学習強調週間<br>～12日（土） |
| 9日（水） | クラブ |
| 11日（金） | 移動図書館（業間休み） |
| 12日（土） | 家族参観<br>PTA環境整備作業<br>引き渡し訓練 |
| 14日（月） | 家族参観振替休業日 |
| 15日（火） | みずほあいさつ強調週間<br>～18日（金） |
| 16日（水） | 全校テスト<br>歯科検診 |
| 17日（木） | 児童朝会 |
| 21日（月） | （祝）敬老の日 |
| 22日（火） | （祝）秋分の日 |
| 23日（水） | 委員会 |
| 30日（水） | 委員会 |

※今後の新型コロナウイルス感染予防対策により、予定が変更になることもございます。ご承知おき願います。

# 水難事故を防ぐために（お知らせとお願い）

夏休みは、涼をとるためにプールや海、川などに出掛ける方も多いかと思います。子どもたちを水難事故から守るために、お知らせとお願いを以下に記します。

**水難事故 急増！**

例年、中学生以下の水難事故による死亡事故は、夏休みに入ってから海や川に遊びに行って事故に遭ってしまうケースが多く、20人から30人ほどの子どもたちの尊い命が失われています。

ところが、今年は、5月に入ってから7月28日までの時点で、まだ夏休みに入っていないというのに、すでに11人もの尊い命が失われているのです。

水難学会の会長で長岡技術科学大学の斎藤秀俊教授は、原因として次のことを挙げています。

▲ コロナの影響で小中学校が休校や分散登校となり、子どもの自由な時間が増えたこと

▲ 感染予防のためとして学校のプール授業が地域によって中止になったこと

これらを原因とした水難事故を防ぐための対応が求められます。

## 学校で指導したこと

### 【泳ぐこと全般に関して】

○ 水の中では呼吸ができない。そのため、命を失ってしまう危険性もあるので、命を守るための行動を心掛けること。

○ プールや海、川などで遊ぶ場合は、きまりを必ず守ること。

○ きまりを守ったうえで、「海の柏崎」の楽しさを味わってほしいこと。

○ 溺れかけたら「ラッコの体勢」

### 【海、川でのきまり】

○ 必ず大人と行くこと。

○ 大人の監視のもと泳ぐこと。

○ 管理された遊泳場で泳ぐこと

○ 感染防止策を講じること。

○ できる限りライフジャケットを着用すること。

○ 泳ぐ前しっかりと準備運動
泳いだ後しっかりと整理運動

### 【プールでのきまり】

○ それぞれのプールのきまりを守ること。

○ 感染防止策を講じること。

○ 泳ぐ前しっかりと準備運動
泳いだ後しっかりと整理運動

○ プールサイドは走らないこと。

○ プールに飛び込まないこと。

## 保護者の方へのお願い

水辺での遊びは、必ず保護者同伴で大人の監視のもと管理された遊泳場でお願いします。また、学校では、海や川などで溺れかけたときに備えて、「ラッコの体勢(背浮き)」を学習します。これは、ラッコのように仰向き、つまり背浮きの体勢で、口や鼻を水面の上に出して呼吸できるようにする浮き方です。万が一普段着のまま水中に転落した場合でも慌てずに、両手で水をかきながら体が仰向けになるようにします。今年度は、水泳授業が中止となったため、実技ができませんでした。そのため、動画を観て学習しました。もし可能でしたら、ご家庭で「ラッコの体勢(背浮き)」を練習したり、お子さんと一緒に動画を視聴したりしていただけるとありがたいです。(「背浮き　動画」で検索するか、「NHK子ども！リアルストーリー第4回」がお薦めです。)

また、万が一溺れかけた子どもがいた場合、周りの保護者はどう対応したら良いでしょうか。溺れかけた子どもを間近に見れば、親は助けようととっさに水に入ってしまいます。しかし、子どもはパニック状態になっている可能性があり、親自身にも溺れる危険性があります。大人も足が届かない水深数m以上の「深み」があります。子どもがこの深みにはまって溺れかけたのを見て、親が準備もないまま慌てて助けに入れば、泳ぎに自信があったとしても同じように深みにはまる危険性は大きいです。このとき立ったままの姿勢でもがけば、やはり身体全体が沈んで溺れてしまいます。6月にも、岐阜県の川で溺れかけた二人の子どもを助けようと水に飛び込んだ父親が溺れて亡くなっています。溺れかけた子どもがいたら、周りの人は無理に助けようとせず、

★まずは岸から、背浮きをするよう指示します。
★次に119番に電話して救急隊を呼びます。
★浮き輪などがあれば投げ入れます。無い場合は空のペットボトルが浮き輪代わりになります。
★投げ入れて「ペットボトルいったよ！かかえて浮いて待て！」と指示します。背浮きを崩さずペットボトルがつかめたら、へそのあたりで保てば体勢が安定します。

***～事故のない楽しい夏休みをお過ごしください。～***

参考・引用：「NHK解説委員室」https://www.nhk.or.jp/kaisetsu/index.html